



日本プライマリ・ケア連合学会  
四国ブロック支部 活動報告

発行人：板東 浩

事務局 〒761-2103

香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1

綾川町国民健康保険陶病院気付

副支部長/事務局長 大原昌樹・松原宛

Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795

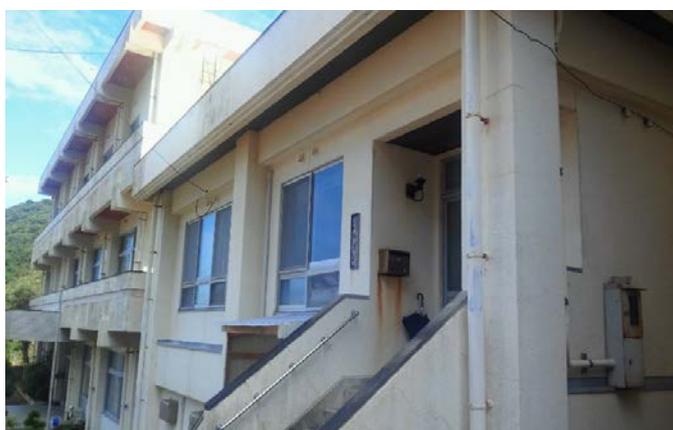
E-mail oharamasaki@gmail.com

## ★1 高知県宿毛市沖の島へき地診療所運営の見直しについて

### ～「医師の確保」の時代から「医療の確保」の時代へ

#### 四国ブロック副支部長（高知）澤田 努

地方の市町村は、人口の高齢化や過疎化が益々進行しており、平成の市町村合併によって、首長が開設者となって運営されている公立のへき地診療所も集約や再編などを余儀なくされているのが現状である。高知県の西端にある宿毛（すくも）市には、沖の島と呼ばれる離島があり、人口は現在 200 名前後まで減少し、その多



くは高齢のお年寄りでお互いに協力しあって生活を送っている。沖の島には、母島（もしま）地区と弘瀬地区の 2 つがあり、母島診療所と弘瀬出張診療所の 2 つの医療施設が設置されている。

平成 27 年 3 月までは常勤医師（自治医科大学卒業医師）が高知県の人事として毎年 1 名ずつ派遣されて 2 ヶ所のへき地診療所の運営がなされていたが、高知県全体としての医師不足や医師の高齢化などの問題もあり、かつ沖の島に暮らす人口の数も減ってきたことも勘案して同年 4 月から

は数のへき地医療拠点病院群からの医師派遣での運用が開始されることになった。

元々、常勤医師体制であった頃から、毎週月曜日は医師の研修日として診療所は休診となっており、島民の皆さんも月曜日の医師不在については、医師のキャリア形成のために快く受け入れていた。そのため、月曜日はそのまま休診日とし、火曜日と水曜日（1 泊 2 日）を担当するへき地医療拠点病院と、木曜日と金曜日（1



泊 2 日）を担当するへき地医療拠点病院とに分けて、現在まで拠点病院群の中で医師の派遣調整を行ってきた。離島ということで、天候不良の時には定期船が欠航することもあるが、その場合には診療所に 2 名の常勤看護師が駐在していることもあり、へき地医療情報ネットワークを活用した遠隔 Web 会議システムによる遠隔診療等で臨時に対応するなど工夫をしてきた。

現在は、火曜日と水曜日を担当する病院として高知医療センターや大井田病院、嶺北中央病院、梶原病院など、木

曜日と金曜日を担当する病院としては大月病院や幡多けんみん病院などで運用が図られている。へき地・離島、中山間地域に暮らす住民は確実に存在するわけで、地域住民にとってへき地診療所はまさに「医療の最後の砦」であり、彼らから医療を受ける権利まで奪い取ってしまうわけにはいかない。

我々は、これから益々厳しくなるへき地医療の環境の中で、持続可能なへき地医療対策のあり方について、市町村や都道府県と共に真剣に考えていかなければならない時代になってきたと考えている。

## ★2 医学生サークル「地域医療研究会」による博愛記念病院視察

徳島大学大学院医歯薬学研究部 総合診療医学分野 (徳島) 谷 憲治

徳島大学には医学生で結成されたサークル「地域医療研究会」があり、平成28年4月現在、約150名のメンバーが在籍し、地域医療に関する様々な活動に取り組んでいます。

平成28年5月21日(土)、その「地域医療研究会」のメンバー18名に徳島大学大学院総合診療医学分野の谷教授が同行し、徳島市南部にある複合医療介護施設である博愛記念病院を視察しました。



まず、副院長の元木由美先生をはじめ博愛記念病院の医療スタッフの皆さんに院内を案内していただき、病院、老健、特養、グループホーム、デイなどの様々な施設を見学させていただきました。続いてリハビリスタッフによってロボットリハビリテーションを体験させていただきました。この設備は徳島県内にこの病院と徳島病院にしかないとお話でした。

そして、栄養士による経口移行のための嚥下開始食と嚥下訓練食作りの工夫を説明していただき、実際に試食もさせていただきました。



最後には嚥下の能力をチェックするための嚥下内視鏡検査の実際も見せていただきました。新入メンバーも多数参加しましたが、1年生にも分かりやすい実習内容を組んでいただき、大学では学べないことを数多く体験させていただきました。

新入メンバーも多数参加しましたが、1年生にも分かりやすい実習内容を組んでいただき、大学では学べないことを数多く体験させていただきました。

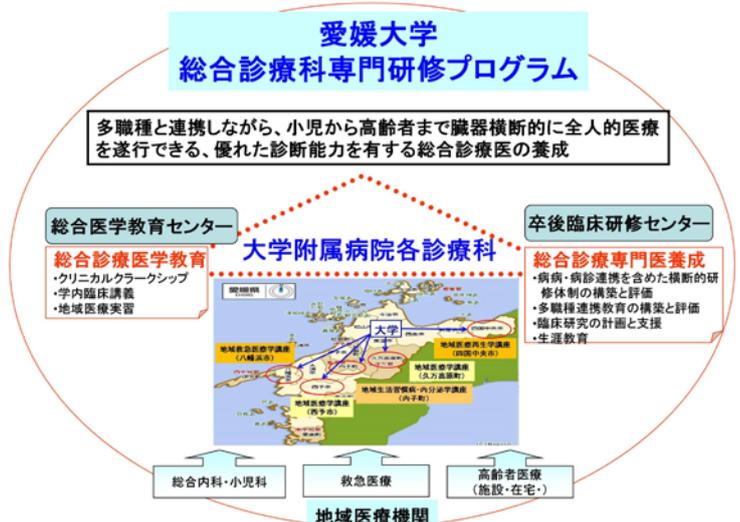
## ★3 医学生による済生丸実習

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

愛媛大学附属病院では、平成28年3月1日より総合診療科の外来診療が開始されました。これは来年度から始まる新しい専門制度に「総合診療科」が新設されることを受け、総合診療実践と総合診療医育成を目的としたものです。

現在、地域医療の現場では指導医や教育時間の不足が問題となっています。総合診療科は、日本プライマリ・ケア連合学会や県内の医療機関とも連携して総合診療医養成の核となり、医療水準の向上に貢献していくことを目指しています。

平成28年5月9日～13日、学生の離島実習を兼ねて済生丸診療船に乗船し、宇和海に浮かぶ小島に向いました。乗船する船は、診療船というだけあって診察室、心電図、超音波、X線装置などあらゆる設備が整っていました。朝3



時に起床し、2時間かけて離島に向いました。午前7時に到着すると既に集会所にはたくさんの島民が集まっており、検診を待ちわびていました。

今回の実習において、大学では学べないこと



を数多く体験することができ、特に離島ならではの医療の在り方について勉強させていただきました。

#### ★4 日本プライマリ・ケア連合学会・第8回学術大会の準備について

四国ブロック支部事務局長・副支部長 大原昌樹

日本PC連合学会四国ブロック支部役員会が、平成28年4月27日(金)19時から、愛媛県四国中央市ホテルグランフォーレで開催されましたので、その概要を報告します。平日夜の開催にも関わらず、四国全域から役員33名中18名の参加がありました。また、第8回日本PC連合学会学術大会の打合せを兼ねたため、連合学会井垣事務局長、大会運営事務局リンケージの参加もありました。

まず、私から平成28、29年度連合学会理事・代議員改選に伴う四国ブロック支部役員との関係を説明しました。代議員については、すでに改選(無投票当選)されており、当選者33名は四国ブロック支部新役員にすでに就任していること、役職については新ブロック支部長から指名されることなどです。また、連合学会地域ブロック理事選挙において、阿波谷敏英先生(高知)が当選されました。これに伴い、四国ブロック支部規約により四国ブロック支部長となりますが、就任日は、第7回学術大会での総会(6月12日予定)で承認された日となります。全国理事に当選された西村真紀先生(高知、関東甲信越ブロックから移籍予定)についても新役員に入ってくださいますが、阿波谷先生と同様な扱いであることなどを説明しました。さらに、来年5月開催の第8回連合学会学術大会については、大会長は連合学会から板東浩先生が指名されており、これは全く変更がないことも説明しました。



議事のポイントをまとめます。

1. 支部長あいさつ—今後も支部発展のために努力したい。

2. 参加者自己紹介・近況報告—参加者全員から近況やプライマリ・ケアに関わる活動報告があった。

3. 学会理事会等情勢報告—坂東支部長からPPTを用いて報告された。井垣事務局長が付け加えられた。

4. 平成27年度決算、ならびに事業報告、監査報告—27年度決算は、本部助成金が従来の代議員数に応じた74万円に加えて、地方会開催支援のために30万円をいただいた。支出は82万円であった。学術集会は香川開催で、香川県医師会に支援をいただいているが、今回はこの30万円と参加費分を負担した。その他、論文集25.6万円、会議費16.9万円などである。

5. 平成28年度予算、ならびに事業計画について—報告し承認された。

6. 平成28年度四国ブロック学術集会(愛媛)について—川本副支部長から11月12~13日愛媛県看護協会で行われる旨報告があった。

7.四国ブロック支部論文集、支部ニュースレター発行について—今年度も継続して発行する。

8. 第8回連合学会学術大会について—実行委員会名簿の確認（2名を加えて40名体制とする）や今までの企画提案を配布し議論した。また、今後のスケジュールと会場計画案についてリンケージから説明があった。総会後の大会長、副大会長、井垣事務局長、リンケージとの打合せで、大会までに各自の役割分担を決めて浅草大会をよく見てきてもらうこと、大会後の6月26日に実行委員会を開催することを決めた。

9.今後の支部活動について—6月12日連合学会支部長会議は板東先生、阿波谷先生と私が参加する。総合診療専門医関係では、議論があった。各県の状況報告が行われ、高知県は県で統一したプログラムを提出したことも紹介された。連合学会家庭医プログラムは、今後も継続されることなども報告された。

10.その他—次期支部長予定の阿波谷先生から、就任にあたっての所信表明があった。



- ・第8回連合学会学術大会成功に向けて、板東大会長を支部を挙げて協力支援します。

- ・総合診療医養成に向けて—これまで家庭医療専門医養成の実績が四国では少ないので、早急に四国の総合診療専門研修プログラムの実状を把握するとともに、ポートフォリオ発表会、指導医講習会、プログラム説明会などの機会を支部として開催を検討し、現在の家庭医療専門研修プログラムおよび、来年からの総合診療専門研修の四国全体の質の向上に取り組むたいと考えている。支部学術集会においても、学生・研修医・専攻医の演題やポートフォリオ発表の場を設けたり、優秀演題を表彰するなどの取り組みにより次世代の人材育成を目指します。

- ・多職種の参画について—支部会員の職種を確認するとともに、支部学術集会での多職種の発表を奨励したり、認定薬剤師の養成の取り組みを行うなど、多職種が活動できる支部を目指します。

- ・学会理事会の情報提供—2か月に1回程度、学会理事会が開催されています。理事会では、学会誌や学術大会、総合診療専門研修のほか多くのプロジェクトについて審議されています。こうした情報をメーリングリストなどでタイムリーに支部役員の皆さんにお届けできるように努力します。

- ・支部活動について—一年1回の支部学術集会、役員会、総会の開催、ニュースレター発行、論文集については継続し充実させる、後期研修に関わる新たな企画を検討する、

などと述べられ、本役員会を締めくくりました。

## ★5 日本PC連合学会総会で支部関連のシンポジウム

平成28年6月に浅草で開催される日本プライマリ・ケア連合学会学術総会の中で、支部関連の企画としてシンポジウム16があります。

本シンポジウムでは3名の演者が各支部における状況を報告します。四国支部からは、愛媛の川本先生が「地域における地域住民を巻き込んだ学生・研修医教育を通して」について発表されます。活発な議論を期待されます。

**第7回学術大会（浅草） シンポジウム16**  
「支部活動の活性化と地域・社会への貢献」のご案内

日 時：平成28年6月12日（日）13:30～15:00  
 会 場：浅草ビューホテル 4階 飛翔 III（第4会場）  
 名 称：シンポジウム16「支部活動の活性化と地域・社会への貢献」  
 司 会：外山 学（益田診療所/支部支援委員会 委員長）  
 金丸 吉昌（美郷町地域包括医療部/支部支援委員会 副委員長）  
 発表者：川本 龍一（愛媛大学 地域医療学講座/四国ブロック支部）  
 杉谷 真季（プラタナス 桜新町アーバンクリニック/関東甲信越ブロック支部）  
 福岡 雄太（医療生協家庭医療学レジデンス—近畿/近畿ブロック支部）

**概 要**  
 一般参加者に加えて、各ブロック支部及び都府県支部から推薦された出席者で構成する。地域支部活動で課題となるいくつかのテーマについての実践発表後、8つのブロック支部、さらには都道府県単位を意識したディスカッションを行い、地域支部活性化のための、各地域の現状に根ざした具体的取り組みのアイデアを創出する。  
 学会全体としての活動の充実や会員数の増加に伴い、地域支部に求められる役割も多様化している。伝統ある支部、新しく立ち上げる支部、それぞれに課題や困難を抱えているのが現状である。全都府県での支部結成に向けての支援や、学会会期中にブロック支部単位で集まる場の提供も併せて行う。  
 今年度は「若手の参画」を重要テーマとして、地域でのつながりづくりや地域支部活動への主体的参加を中心に、ディスカッションを行う予定である。